

野田市の高齢者の将来像は

「住み慣れた地域で暮らすこと」

第5期シルバープランは在宅介護と介護予防を重点に

生活機能の低下を防止して、要介護状態になることをできる限り予防する介護予防サービスを充実します。

シルバープラン策定にあたり、国が示した重点的に取り組むべき4つの項目を検討し、アンケートなどから新たな施策にも取り組んでいきます。

■第5期シルバープランの重点施策

- ① 認知症支援策の充実
- ② 医療との連携の強化
- ③ 高齢者の居住に係る連携の強化
- ④ 在宅生活支援サービスの充実



高齢者福祉課の窓口では、担当者や認知症サポーターの有資格スタッフが対応しています

① 認知症支援策の充実

高齢化の進行とともに認知症となる高齢者も増えており、介護している家族には大きな負担がかかっています。家族の負担を緩和することの必要性を社会全体で考え、支えていくことが重要です。

●認知症サポーターの育成を強化

認知症を理解し、認知症の人とその家族を見守る認知症サポーターの育成は、野田市においても平成20年度から実施しています。

第5期でも多くの市民の方に認知症に



認知症サポーター養成講座を開く「キャラバンメイト」と、受講した「認知症サポーター」はオレンジリングを身に着けています。「高齢者福祉課の窓口には複数のメイトがおりますので、気軽に相談にいらしてください」

関する学習の場を提供する事業として推進していきます。

●成年後見制度の周知徹底

成年後見制度は、認知症などで判断能力が十分でない方の財産管理や医療・福祉サービスの契約などを、家庭裁判所で選任された親族や知人、法律・福祉などの専門家、法人などが本人に代わって行い、本人の保護や援助をする制度です。

市報を活用し制度や事業内容の周知を徹底して、地域包括支援センターにおける相談業務の充実強化を図ります。

② 医療との連携の強化

高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、24

時間対応の在宅医療や訪問看護、リハビリテーションの充実など、医療との連携強化がますます

ます必要とされています。

●24時間対応の定期巡回・随時対応型訪問介護看護を推進

短時間の訪問介護と、緊急時の随時対応を組み合わせて提供するサービス（15面中段参照）で、医療との連携が必須です。要介護認定者へのアンケート調査でも6割が利用を検討したいと回答しており、職員の確保などの問題点に向き合いながら進めていきます。地域密着型サービスの整備が急務である北部・川間地区に1施設（定員50人）の整備を見込んでいます。

●複合型サービス（小規模多機能型居宅介護と訪問看護）を新設

小規模多機能型居宅介護と訪問看護を組み合わせ、医療的なニーズにも対応する新設のサービス（15面下段参照）です。訪問看護の整備がされていない閑宿地域に1施設（定員25人）の整備を見込んでいます。

③ 高齢者の居住に係る連携の強化

高齢者のみの单身・夫婦世帯が急増している現在、介護施設とは別に高齢者の住まいに対する多様なニーズを支える体制が必要となります。

住宅困窮者民間賃貸住宅居住支援事業として、高齢者を対象に民間賃貸住宅の